

公益社団法人水戸青年会議所

第68代理事長

早川 裕之

#### スローガン

「過ぎたるは猶及ばざるが如し」

#### 基本理念

惜しみない貢献と革新の追求を  
そして感動を通じ、地域の繁栄を願う

#### 基本方針

柔軟な思考によるまちづくり  
郷土愛を知り研鑽するひとづくり  
継承と挑戦による未来への可能性  
中核を担う誠実な組織運営  
共に成長し活躍する機会の共有

人は物事を評価するとき、うわべや経験の長さなど数値的に判断をしがちである。時には相手の人生までも数字で判断してしまうこともある。しかし、人生とは決して表面だけで判断することはできない。それは、人々の幸せにどれだけ貢献できたかが、唯一の人生のものさしであると確信しているからである。

20世紀初頭、アメリカのセントルイスには一本のハイウェイが開通し、その文明的発展は人々の希望となっていた。そして一人の少年はやがて青年となり、そこに伝わる文化を守るため、ハーキュレイニウム・ダンス・クラブを主催していた。その青年とはヘンリー・ギッセンバイヤ・ジュニアである。彼は、本当に住みよいまちをつくるのは文明だけではなく、そこには人々の拠り所となる文化が必要であり、それらを守るのは市民の力であるという一つの確信にたどり着く。いわゆる、ACTIVE CITIZENSHIPである。そして1915年、最初のチャプターとして進歩的青年市民協会を設立することとなる。これがJC運動の始まりであり、後のJC創設者である。

人は決して数字だけで評価してはならない  
物事は見えるものだけが本質ではない  
人生のものさしとは自らの貢献によるものである

### 【発展を願う思考をもつ】

我々が忘れてはならないことは、自分たちの地域を見つめ改革する意欲であり、そこから見えてくる地域の文化と現代の文化を融合する柔軟な思考である。時は平成から、令和という新時代へと移り変わり、地域発展の時代から、自らの特色と資源を活用することが求められる地域経営へと移り変わっていく。これは付加価値の高い特有の文化や自然、伝統や歴史などの地域資源を用い、そこに住み暮らす人々が地域経営を行うということである。では、どのようにすればもう一度活気に満ち溢れた、あるべき姿を取り戻せるのか。あるいは殺伐とした地域と成り下がるのか。片や再興を遂げ再び脚光を浴びるのか。いつの時代も青年は先駆者で在り続けなくてはならない。すなわち経営者の視点から、いかに地域の資源を高付加価値なものとするかは我々青年の肩にかかっている。

### 【日本が注目される日】

地域活性化の大きな基盤は、定住促進と交流人口の拡大である。そのうち交流人口の拡大は、どの地方もその潜在能力を秘めている。2013年に、2020年夏季オリンピック・パラリンピック競技大会（正式名称：第32回オリンピック競技大会及び第16回パラリンピック競技大会）の開催都市を決定するIOC総会が開かれ、東京がその権利を勝ち取った。今後、間違いなく日本へ未体験の感動を求めて訪れる観光客は増加傾向となるであろう。ならば私たちは、歴史に裏付けされた技と想像力、そして斬新なアイデアと繊細な気遣いをもって、これまでの事業を変革する必要があると同時に、地域に点在する有形無形の文化財をより広く伝えることが重要であると考えます。これからの日本は、地方を中心とした地域経済による向上と、心と五感に触れる感動体験を通じた未来が不可欠であり、日本人としての美意識をも深めてくれるであろう。

### 【利と創造力】

2011年3月11日。突如として発災した東日本大震災は、これまで築き上げたすべてを崩壊させた。広範囲による激震と巨大な津波は多くの生命を奪っていった。誰一人取り残さないと信じ、仲間の安否を気遣った行動は世界から称賛をうけた。きっと、誰もが日本人として生まれたことを誇りに感じずにはいられないだろう。予測の範疇を超えた現実が単なる記憶とならないように、これからも決して忘れてはならない。そして2020年、私たちはあれから9年目の月日をむかえる。復旧・復興はより加速し、世界の文明は第四次産業革命の真っただ中である。人工知能、ビッグデータ解析、IoT、ロボット産業といったイノベーションが、経済社会の有り様を一変させようとしている。新しいイノベーションは様々な社会問題を解決し、より安心でより豊かなものとする。ならば、イノベーションがもたらす社会の変化を捉え、既存のアイデアを組み合わせる必要がある。そして自らが使いこなすリテラシーを身に付ける。そんな取り組みによって地方の輝ける未来を切り拓きたい。

### 【誠実であるということ】

権利の行使と義務を果たす責任とは自覚を以ってして初めて確立される。組織とは個人の優れた力量や、卓越した才能によって築かれるものではない。入会して誰もがそうだった様に、J Cの知識や経験の度合いにも差が生じる。もし、人として上下や優劣の意識があるのであれば、そんなものは捨ててしまった方がいい。大切なのは、相手の為に利害を考えず尽くすこと、相手を慮るという情緒であり人間関係を構築するための基本である。そして、組織の認知度や存在価値を高めるためには、運動を展開するための地域と、他団体との連携体制を改革する議論が求められる。情報とは受け手が判断するものであり、発信する素材は必要とされなければ相手の琴線に触れることはないからである。

### 【世界共通の文化】

我々は、各分野の第一線で活躍し広く異なった職種や地位の青年で構成された組織である。しかし会員として入会すれば、公平に議論の場が与えられ、そのような背景は全く関係ない。全国津々浦々で自他ともに修練し、そして成長していく。そんなメンバーが全国で活動し、その姿が組織にとって強みとなる。果敢に挑む姿勢は地域の時代を切り拓く先駆者となり、全国の会員は相集うことを求めあってきた。そしていつの日もその繰り返しであり、視野を広げれば性別も国籍も関係ない。海を越え国境を越え、平和と希望を胸に発展と成長の機会を求め相集うのである。国際社会における日本の存在感は高く、言葉よりも互いに意識をもって、相手を理解することが重要であり、自分の価値観を押し付けてはならない。そんなあらゆる国際交流の機会と、活躍の場を拡げていきたい。

### 【成長と分配の好循環】

全国の会員会議所、すべてが一概とは言えないが、あながちメンバーは減少傾向にありつつ、在籍年数が少ないメンバーが増えているだろう。政治や行政に主体性をもって参画し、責任ある発言ができる青年の存在はどれほどだろうか。本当に青年会議所という組織は市民から魅力的に映っているのだろうか。この議論を惜しんでしまったら、増加の兆しと会員としての誇りは消え、組織の成長は止まってしまう。ここ近年で社会的価値観は大きく変化してきたが、一方で我々の組織体制は変化をしてきただろうか。過去の延長線上に捉われず令和という新しい時代とともに、女性会員の増加にも目を向ける必要があると感じる。同時に、女性の視点が加わり活躍することによって、今までの行動と活動が見直せることを意味し、今まで観えてきた景色も一変するからである。人口の減少が進む日本にあって、きっと次なる成長の大きなエンジンとなるであろう。願うべきは、まちの経済的な発展と会員企業の成長であり、さらなる組織への信頼獲得と会員の拡大のために。

### 【組織運営の秩序】

膨大な個人データが世界を駆け巡る中では、プライバシーやセキュリティーを保護するため、透明性の高さと公正かつ互恵的なルールが求められている。そして組織運営の秩序とは、公益法人として内閣府が定めた要件を始め、費用対効果や相対支出などが適合した要素と、プライマリーバランスから成り立っている。これらの要素は個別で管理されるのではなく、有機的なつながりにより運動の質を飛躍的に向上させると考える。最高のパフォーマンスを発揮するためには、この運動体を形成することが必要であり、運営は運動を側面的に支える立場であるからこそ、広角な視野と中長期的な展望を持ち合わせなければならない。

終わりに・・・

その人の人生にとって J C に入会する転機とは、後に何かが変わる瞬間である。一人ひとりがリーダーであり共通して言えることは、物事に対し誠実であるということである。この誠実さとは、人間の根源に触れる部分であるが故に、他人から教わるものではない。それは幾多の経験を得て自然と身に付くものである。しかしながら、その経験による長さ故の慢心はないか。入会当時感じた、挑戦者としての気迫は薄れてしまっていないか。何かを成し遂げた時の感動や初心を忘失してはいないか。

新しい時代へと変わる今だからこそ、常に民意の存するところを考察すべきであり、繰り返し世界は想像も出来ない進化を遂げるであろう。

私たちが望むべきは「定説を覆すことで、新たな時代が広がる」己の固定観念に捉われず、全く新しいアプローチを。「激動する世界の、そのど真ん中でリードする」それが私たち、青年経済人としての担いである。